

令和元年度 山村活性化支援交付金事業実施評価書

1. 事業名

山村活性化支援交付金事業

2. 事業実施主体名

マロンの里を元気にする協議会

3. 事業概要

・事業目的

マロンの里交流館を拠点として、農業を中心に地域の魅力と価値を掘り起し、商品開発に取り組みながら、雇用と定住を目指し、地域の活性化を図ることを目的とする。

・事業費・交付額(単位:円)                      事業費      7,159,922円   交付額      7,107,619円

・事業実施期間                      令和元年6月12日 ~ 令和2年3月31日

4. 実績評価

(1) 目標の達成状況等の総合的評価

マロンの里交流館の売上については、毎月イベントを開催するなどして昨年を上回ったものの、目標達成には至らなかった。しかしながら、地消地産を進める給食センターへの出荷については、取り組みの結果、増加してきた。

(2) 取組状況

(1) 地域資源調査

栗の調査は地元の協力等が得られなかったため、実質的に調査を行うことができず、費用の執行ができなかったが、栗の生産者にマロンの里への出荷を呼びかけた。

(2) 地域の人材育成

月に1回の『マロンの里を元気にする協議会』を継続して開催し、栗の生産及び管理出荷体制の検討を中心課題としながら、料理開発・商品化を図った。

併せて、アドバイザーを招いた意見交換会開催した。その中で、現在雇用している事務局員を中心に人材を育成を行った。

(3) 販売促進とマーケティング調査

情報発信ツールを最大限に活用し、集客力の向上を図りながら、店の魅力アップにつながる新商品の開発を進め、その新商品が次年度以降に販売可能となるように、生産及び出荷体制の検討や整備方向を検討した。

さらに、普及としてイベントや朝市を中心に様々な試食や仕掛けを試みた。また、HPの開設やSNSの活用を進めた。

給食会議と地域説明会は継続して開催し、交流館と給食センターへの出荷量増加、直売所における野菜や加工品の売上向上(収入安定)を進めた。

(3) 事業実績

①月に1回『マロンの里を元気にする協議会』を開催し、マロンの里に関わる人たちが自由に思いを話し合う機会をつくり、意見交換を行った。また、コーディネータとともに地域住民の意識醸成を図り、人材育成として、協議会事務局員として地元の若者の採用を続けた。

②地元住民の協力を得て、新商品の開発を進め、アンケートなどを行い、商品の改良を進めた。

③毎月給食会議に参加し、給食センターへの出荷量を伸ばした。

④土曜日(朝市)を毎月開催し、リピーターの確保と来場者の増加を図った。

⑤HPの開設やSNSで情報発信を行った。

(4) 実施体制

マロンの里を元気にする協議会

(5) その他事項

## 5. 事業実施結果

### ・目標達成状況

指標	目標値	実績値	達成率
マロンの里交流館の売上	46,000千円	33,392千円	73%
事業を推進する協議会の事務員	0人	1人	
給食センターへの農産物出荷量(販売額)	1,250千円	941千円	75%

(計測方法)マロンの里決算資料

### ・所見

マロンの里交流館の売上については、イベントを定期的を開催するなどの取り組みをした結果、昨年より利用者数、売り上げとも昨年を上回ったものの、目標値を達成することができなかった。今後はイベントを引き続き開催するとともに、料理開発・商品化により売上増・集客増を目指す。

事業を推進する協議会の事務員については、令和3年度以降は交流館の売上により雇用ができるように事業を展開していく。

また、給食センターへの農産物出荷量(販売額)については、引き続き、目標値を上回るよう、働きかけを行っていく。